

認定品種水稲もち「峰の雪もち」について

農業研究センター 天草農業研究所

研究のねらい

平坦地域のもち米生産団地における品種は晩生品種の「ヒヨクモチ」だけであり、刈遅れによる品質低下とともに共同乾燥施設の有効利用が問題となっている。

また、早期栽培地域に適するもち品種がなかったため、栽培特性の優れた早生品種の導入が望まれていた。

そこで、平成5年から良質、良食味で早生品種の選定を行った。

研究の成果

- 1 来歴「奥羽 302 合」を母とし、「ヒメノモチ」を父とした人工交配品種である。
- 2 品種特性
 - (1) 出穂期、成熟期は「宮崎もち」とほぼ同じ、早稲種である。
 - (2) 稈長は「宮崎もち」より短く、耐倒伏性は強である。穂長はやや長く、穂数は少ない。
 - (3) 収量性は「宮崎もち」と同程度で、千粒重が重く、品質も優れる。
 - (4) 耐病性は葉いもち病には中、穂いもち病には弱で、白葉枯病に中である。
 - (5) 食味は「宮崎もち」より優れる。
 - (6) 穂発芽性はやや難で、耐冷性は中である。
- 3 普及地域 海岸島しょ地域及び平坦地域の早期栽培地域

普及上の留意点

- 1 籾の色が黄白で、うるち種との区別が困難なため、栽培ほ場の集団化を図るとともに、出穂期がほぼ同一品種（早期コシヒカリ）の近接栽培は避ける。また、種子は毎年更新する。
- 2 極端稈であり、低他力田ではコンバインによる収穫作業に支障をきたす恐れがあるので低他力田での栽培はさける。
- 3 いもち病にやや弱いので、適期防除に努める。
- 4 野菜（冬春野菜）前作に導入可能。

表1 生育特性

品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏* 程度	穂いもち病*
峰の雪もち	7.8	8.13	66	8.5	436	1.2	0.2
宮崎もち	7.9	8.13	80	8.0	488	3.2	0.0

注) 平成5年～7年の3ヶ年平均値、* ; 0 (無) ~ 5 (甚)

表2 収量及び品質

品種名	玄米重(kg/a)				玄米 千粒重 (g)	品質 * 1	検査等級* 2		
	H 5	H 6	H 7	平均			H	H 6	H 7
峰の雪もち	46.1	56.7	60.5	54.4	21.7	3.3	2下	1	1上
宮崎もち	31.8	60.9	64.8	52.5	19.4	4.2	規格外	3	3上

注) * 1 ; 1 (上の上) ~ (下の下) までの9段階評価

* 2 ; 1の上、中、下・2の上、中、下・3の上、中、下・規格外の10段階評価

表3 食味検定結果

品種名	食味検定項目					総合評価
	外観	香り	うま味	粘り	硬さ	
峰の雪もち	1.0	0.0	0.7	1.0	0.0	0.6
宮崎もち	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 基準の0に対して総合評価・外観・香り・うま味は+ 5 (極端に良い) ~ - 5 (極端に不良) 粘り・硬さ+ 3 (かなり強い・硬い) ~ - 3 (かなり弱い・軟い)